

北海道熊研究会」Hokkaido Bear Research Association

<北海道熊研究会 会報> 第100号 2020年12月30日

北海道熊研究会事務局 北海道野生動物研究所内(Tel. 011-892-1057)

代表 門崎 允昭

事務局長 Peter Nichols ピーターニコルス氏

幹事長 藤田 弘志 氏

ご意見ご連絡は本紙送信 email ではなく、下記の email へお願い致します

e-mail: kadosaki@pop21.odn.ne.jp

既報会報の1~99号はWebsiteに「北海道野生動物研究所」と入力しご覧下さい

会報99号でお知らせした件で、下記事項について、質問状を出しましたので、その全文を掲載お知らせします。

ヒグマの狩猟期についてのお尋ね

動物管理担当課長 藤島京子 様

回答は下記宛てに、お願いします

稗田 一俊 <shotty@dream.jp>

2020年12月28日

北海道の熊問題を考える会（共同代表）

奥津義広・門崎 允昭・稗田 一俊

藤田 弘志・長谷 智恵子

事務所 北海道野生動物研究所(Tel. 011-892-1057)

先日は誠実に対応下さり、有り難うございました。

さて、過日の私たちの申し入れは「ヒグマによる各種被害を予防しつつ、ヒグマを殺さない施策を提起し、その実現をお願いしたものであります。

従って、私共の提起を真摯に受け止め、実施されれば、我々が深刻に受けている「狩猟期の延長」は回避出来るのです。そこで、お尋ねしたい事を下記に、書き留めましたので、誠実に回答願います。

- (1). 狩猟期を延長しようとする理由と、その根拠とその理由を**具体的に明示してください**。
- (2). 新聞報道（道新10月21日）によると、初年度は全道一円では無く、一部地域で実

施し、その後各地域に順次拡大すると言うが、それは事実か、**ご説明ください**。また、それが事実であるとするれば、その理由及び根拠を、**ご説明ください**。

(3). 猟期の延長によって、無差別にヒグマを殺すならば、道が言って居る「道民はヒグマと共存を目ざすと言う」事に反するのではないのでしょうか。**詳しくご説明ください**。

(4). 我々は、我々が提起した4項目を、道が実施すれば、貴殿らが危惧している事象は、総て解消される事を、具体的根拠を明示して、提起したので、それらを実施し「猟期の延長」の実施中止ないし、延期をして戴きたい。そして、**公開の公聴会を実施し**、その上で「**猟期の延長の実施**」の有無を判断して戴きたいと要望しますが、**それについて、どう対応されるのか、ご説明ください**。

(5). 地域では身近に生息するヒグマとうまく共存している住民がおります。狩猟期の延長はこうした地域で共存しているヒグマを捕殺する可能性がありますので、①そうした地方の事情を企画立案の時点で調査されているのかどうかを教えてください。また、②地域の住民と共存しているヒグマが捕殺された場合、**住民はどのような状況に置かれるのかについて、検討されたことを根拠を示してご説明ください**。

(6). 上記で、説明を求めている通り、「**狩猟期の延長**」は「**ヒグマの人身事故を防ぐ**」ことにはならず、これはヒグマの殺戮に他なりません。道が言うヒグマとの共存と言う思想に反する事になるのではありませんか。我々は再度此処に、「**狩猟期の延長**」の中止を求めますので、中止するのか、しないのかについて、回答ください。中止しないのであれば、**中止しない理由を根拠を示してご説明ください**。また、道が言う「**ヒグマと道民との共存を目指すという方針と矛盾すると、我々は考えますが、それについてもご説明ください**。

<以上、回答のほど、よろしく申し上げます>。